



二之江の子

令和 6 年 9 月 2 日
江戸川区立二之江小学校
第 5 号

未来に向けた思いやり

校長 大石 吉郎

夏休み中、地域のお祭りに子供たちが参加している様子を見てみると、子供たちは地域の宝であることを強く感じました。7月27日(土)に開催された古川まつりには、本校の金管バンドが地域の一員として参加させていただき、夏の大切な思い出となりました。

夏休み期間中も、保護者の皆様、地域の皆様方に子供たちを見守っていただいたおかげで、大きな事故や怪我等もなく始業式を迎えることができました。子供たちの元気な笑顔が学校に戻ってきました。改めて感謝申し上げます。

今年の夏は、自然災害の影響を大きく受けた夏となりました。特に8月8日(木)に宮崎県日南市で大地震が発生した後「南海トラフ地震臨時情報・巨大地震注意」が発表され、緊張感をもって過ごすこととなりました。また、台風やゲリラ豪雨等も年々、勢力が増して甚大な被害をもたらしています。前回の学校便りの繰り返しになりますが「備えあれば憂いなし」です。学校の避難訓練に併せて、ご家庭でも災害時の対策を見直す機会にさせていただくことで、「命を守る行動」の実践力につながると考えています。

さて、パリで開催されたオリンピックでは、連日テレビ等で報道され、夜遅くまでオリンピックを観戦していた人も多かったと思います。日本選手団は、金メダル20個を含む45個のメダルを獲得し、過去最高となりました。心に残る素晴らしい名シーンがたくさんありました。

そして、今パラリンピックが開催されています。パラリンピックでは、様々な障害のあるアスリートたちが、公平に個性や能力を発揮し活躍できる世界最高峰の競技大会です。「できないこと」に着目するのではなく、「どうしたらできるか」の視点にたって創意工夫し、限界に挑むパラリンピアンは、社会の中にあるバリアを減らしていくことの重要性や、発達の転換が必要であることに気付かせてくれます。

本校の卒業生、社内彩野選手(競泳)が、壮行会で「目標は自己ベストの更新。東京大会よりも早く泳ぐことを約束したい。」と力強く子供たちに話してくれました。パラリンピックを身近に感じることができる二之江小の子供たちは幸せです。社内選手をはじめ、パラリンピアンが挑戦している姿を通して、共に生きていく共生社会について考えられるように学校でも取り組んでいきます。

江戸川区では、共生社会の実現のために区が果たすべき役割などを定めた「ともに生きるまちを目指す条例」が2021年7月1日に制定されました。

これは、2100年になって生活しているこのまちを夢と希望に満ちあふれたものにしたい、その実現に向けて全力を尽くすことを誓っています。「人とともに生きる」「社会とともに生きる」「経済とともに生きる」「環境とともに生きる」「未来とともに生きる」これらのことは、未来に向けて一人一人が思いやりをもって歩いていくことが大切です。

8月20日(火)には2100年の江戸川区はどんな未来がいいか、そのために自分たちができることは何かを子供たちが考えるワークショップがグリーンパレス(松島1丁目)で初めて開催されました。小学5年生から中学3年生まで121名が参加し、斉藤 猛 江戸川区長が将来を担う子どもたちの多様な意見を聴きました。

本校からも6年生の 齋藤 晃希 さんが、代表で参加しました。江戸川区のホームページに、このときの様子が掲載されているので、そちらも併せてご覧ください。

2学期は新校舎に引っ越しをしてから、1年を迎えようとしています。新校舎完成1年をお祝いする気持ちを込めて、行事等に取り組ませていきたいと考えています。

今学期も保護者の皆様、地域の皆様のご理解ご協力を引き続き、よろしくお願い申し上げます。

